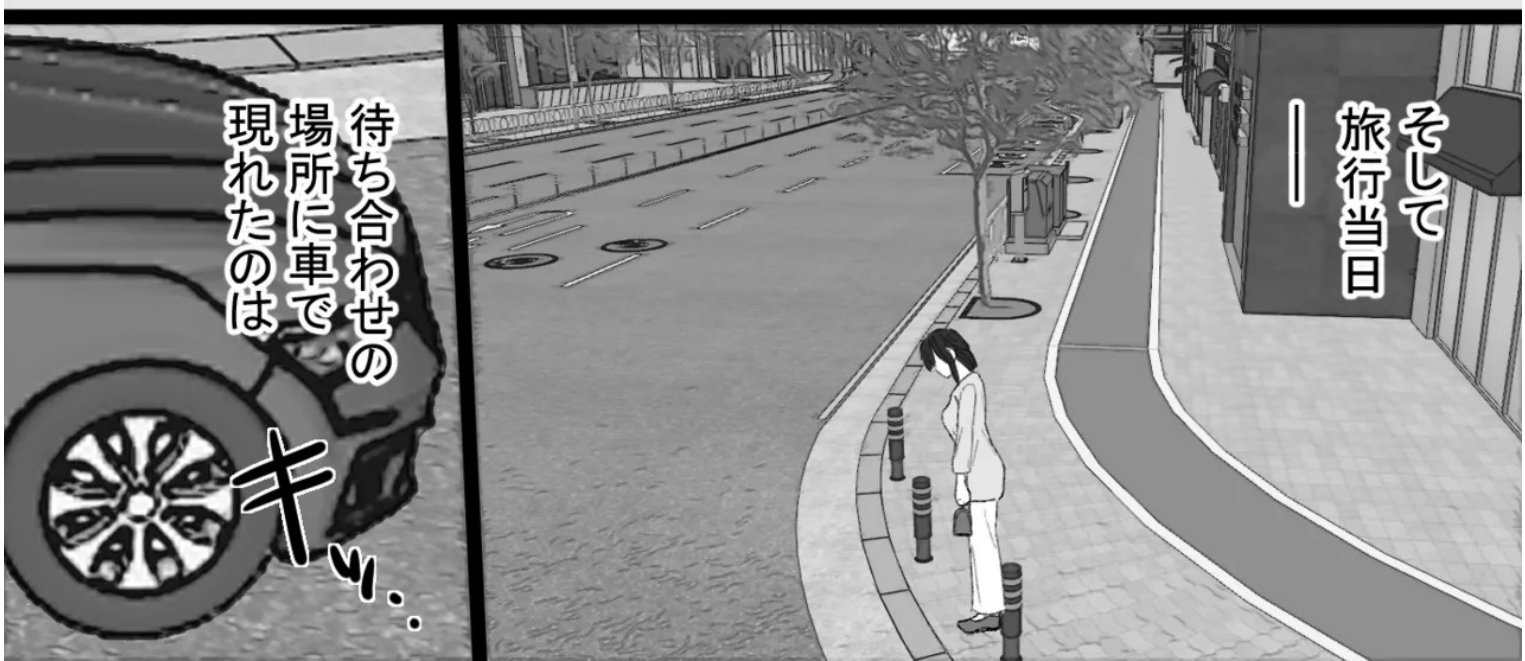
金珠狼

染色妻8

～４Ｐ不倫温泉旅行編～

私の名前は
清水恵子(32)
平凡な
専業主婦だ
久々に温泉旅行
とかどうかなと
思ってさ
来週まとまった
休み取れたから
うん
温泉旅行？
え？
ら…
来週…
愛する夫に誘われ
本当は嬉しいハズ
なのに
私の心境は
複雑だった
何故なら…

え？
ゴメン…
来週は
店長との
約束が…
不倫相手との
旅行が決まって
いたからだ
…
そっか…
そ…
それじゃ…
しょうが…ないか…
セキ
セキ
そして何故か
夫はその状況に
興奮していた


そして
旅行当日
――
待ち合わせの
場所に車で
現れたのは
キィ…

おっはー
ケーコちゃん♡
不倫相手でもある
パート先の店長
小峠伝助だった
そして―
その車中
には
あ
ウミちゃんも
……なんだ…
ハイ…
パート仲間の
女子大生
阿藤羽海ちゃん
が先に乗っていた
え…？
この声…？
ギ…
は！？
マジか？？

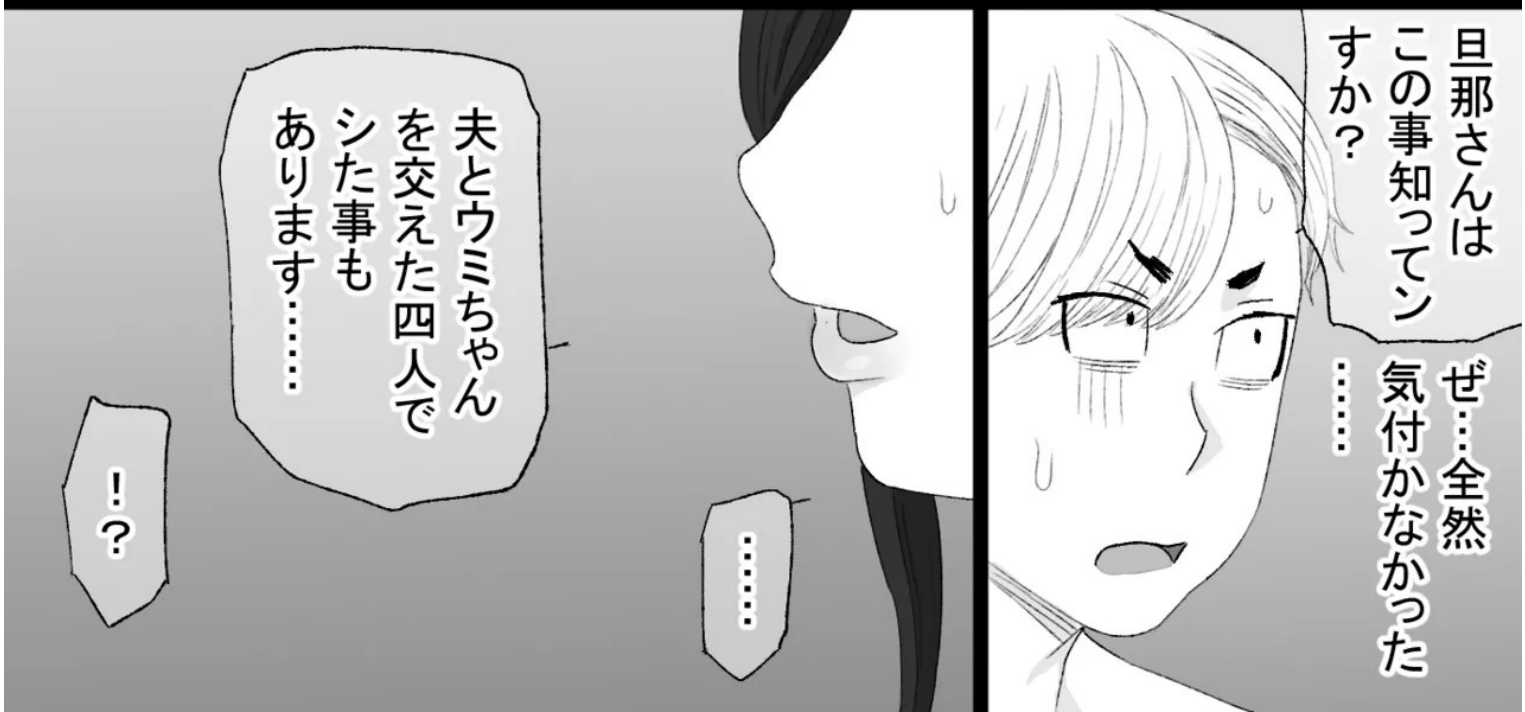
クソ…
振り返るとそこにいたのは
ま…マリアさん？
あのおっかない女性社員の三橋マリアさんだった
店長と私達の関係を知らなかったマリアさんは
酷く狼狽えた様子で
そーいう事かよ
また私とウミちゃんもマリアさんと店長の関係を知り激しく動揺した
移動中の車内は重苦しい空気が流れた

それから
2時間ほど
車で移動
すると

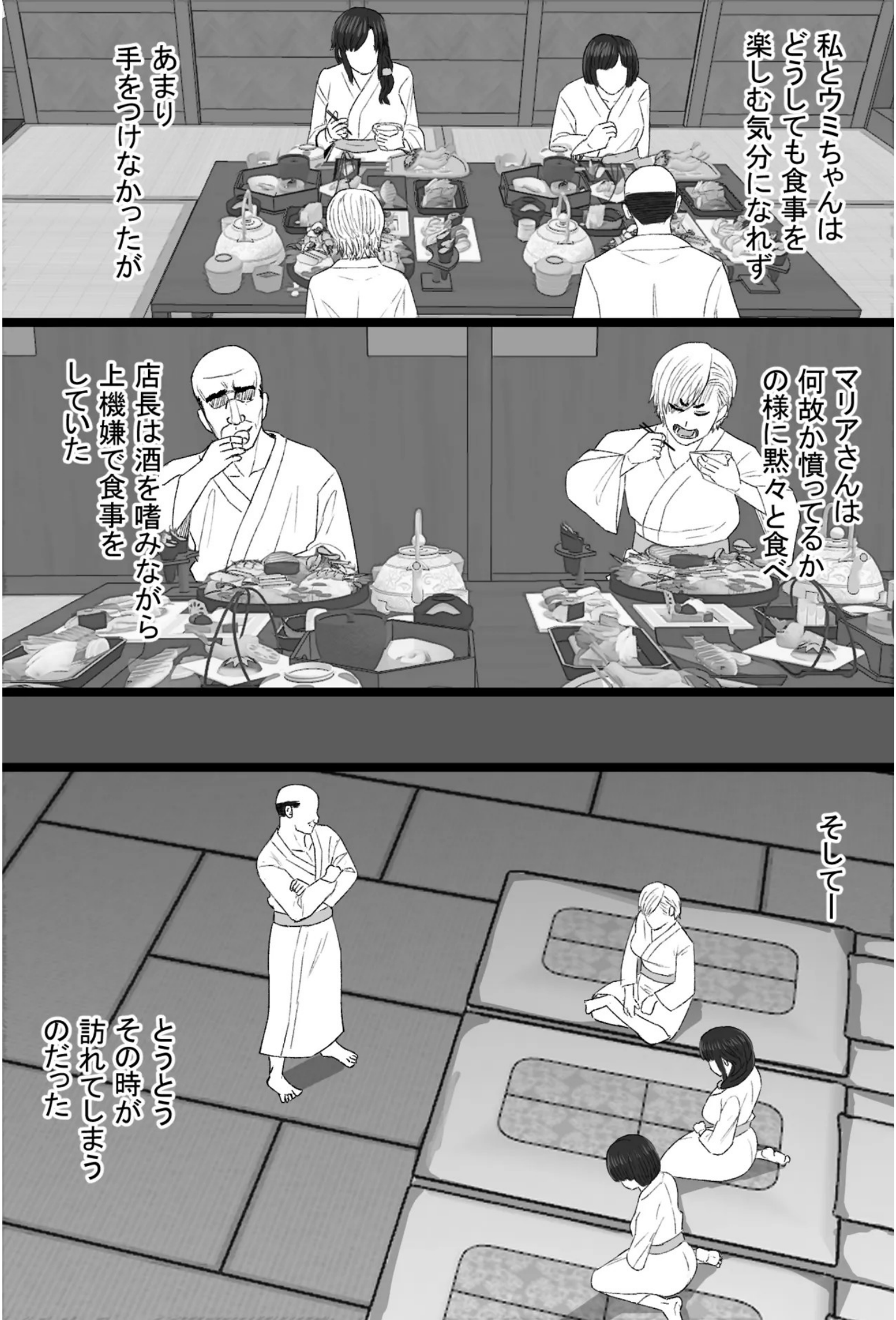
こうして
私達三人は
旅館の温泉に
入浴したのだが
車中の重苦しい
空気は改善されて
おらず
…
…
温泉で日頃の
疲れを取るハズが
逆にストレスを
溜める状況に
陥っていた
うう…
気まずい…
そんな中――
あのさ…

……

ここに来てはぐらかす訳にも行かず



スゲーな!?
二人とも
大人しい顔して
性が乱れすぎ
やろ?!
そこらのアバズレ
でも旦那と不倫相手
と一緒になんて
中々やらんぞ!?
いや……
確かに
アレを味わっちまえば
どんなに真面目な
ねーちゃんでも
色に狂っても
おかしくはないか
……
温泉から出て
部屋に戻ると
机には
豪華な食事が
並べられていた


私とウミちゃんは
どうしても食事を
楽しむ気分になれず
あまり
手をつけなかったが
マリアさんは
何故か憤ってるか
の様に黙々と食べ
店長は酒を嗜みながら
上機嫌で食事を
していた
そして―
とうとう
その時が
訪れてしまう
のだった

店長は
じゃあまず―
ボクのチンポしゃぶってくれた娘から
イカせてあげるよ♡
!?
そう言ってその狂暴な肉棒をさらけ出した
マリアさんの目の前でスるなんて出来るハズもなく
……
私は唯々その場でまごついているだけだったが
なんと――
私――
やります……
ウミちゃんが恐る恐る手を挙げた

そして――

ウミちゃんは
その狂暴な肉棒を

ﾂﾂ・・♡

口一杯に
頬ばった

ズポ

ズポ

あ～
いいね～♡

アトーちゃん
今日は気分が
乗ってるね♡

ホラどれくらい
興奮してるか
見せてごらん♡

そう言って
浴衣を
めくると

下着にハッキリ
目視できる位
シミができていた

店長の言う通り
興奮してるせいか
ウミちゃんの口淫は
激しさを増し
レロォ
ズプ
私とマリアさんは
グポン
ズプ
固唾を飲んで
見守るしか
術はなかった
じゃ
アトーちゃん
グイ
69で
イカせて
あげるね♡

アトーちゃん
すっごい濡れてるね♡
店長の言う通り
ウミちゃんの秘部は
白い糸が引く程
濡れていた
そして
店長がそこに
むしゃぶりつくと
彼女は大きい動きで
反応したのだった

こうして
私とマリアさんが
凝視する中
あ…ダメ♡
ビクン
イク……♡
ビクビク♡
ウミちゃんは
絶頂した

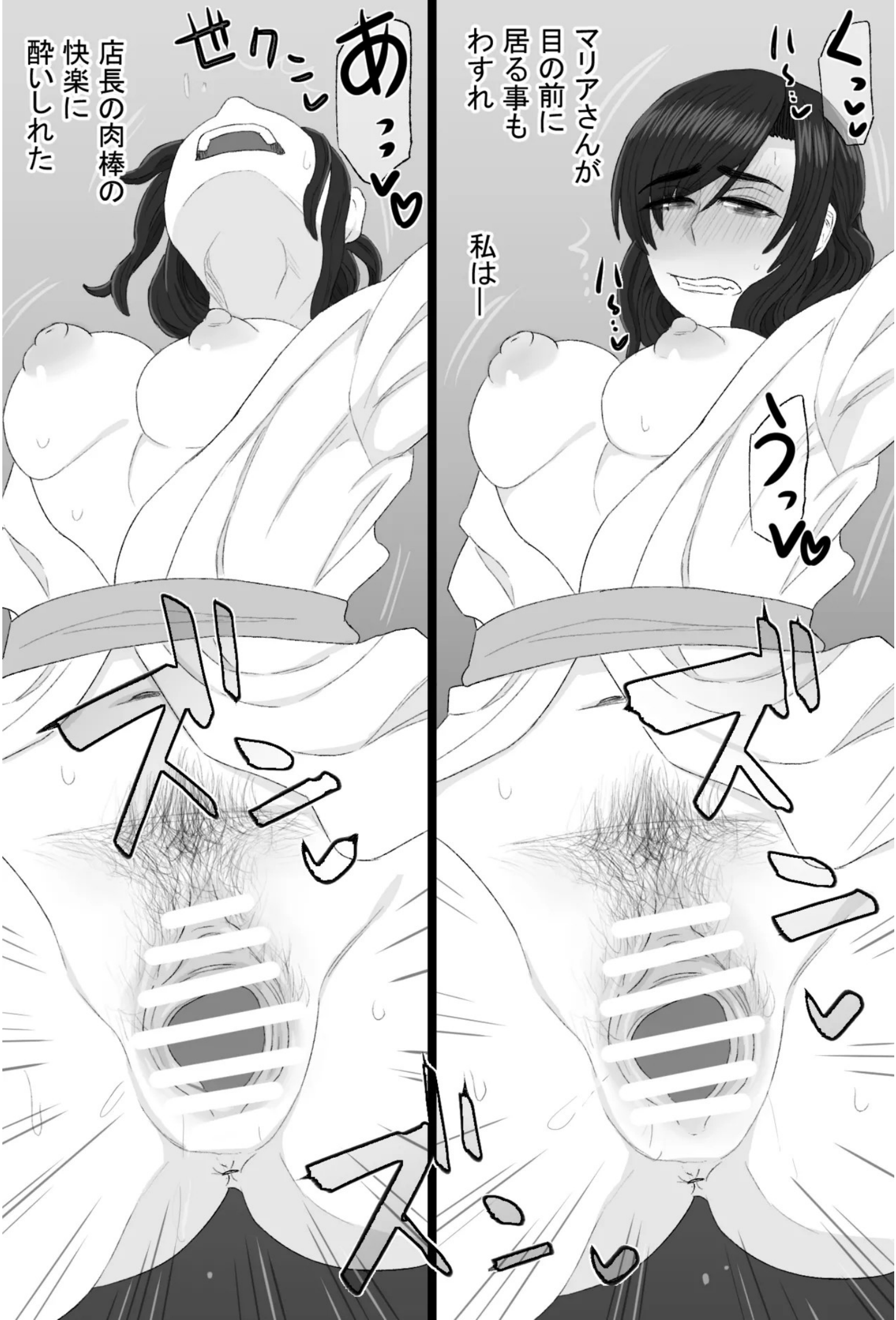
あらら
スゴいイキっぷり
ゼクン
じゃあ
次は――
ゼクン
ケーコちゃん♡
ギク…
う
……
こうして
マリアさんの
目の前で
私は
抱かれること
になった

店長の肉棒を
ゆっくり
シゴくと
ニュ…
ニュ…
…やっぱり
シュウ君のと
全然違う…
夫のモノとの違いを
嫌でも実感する
ゼク…
あ～
いいね～♡
ケーコちゃんの
手コキ気持ち
いいよ♡
じゃ
ボクも
ス…
わ♡
スッゴい
マンコヌルヌル♡
ゼクン
うあ～♡

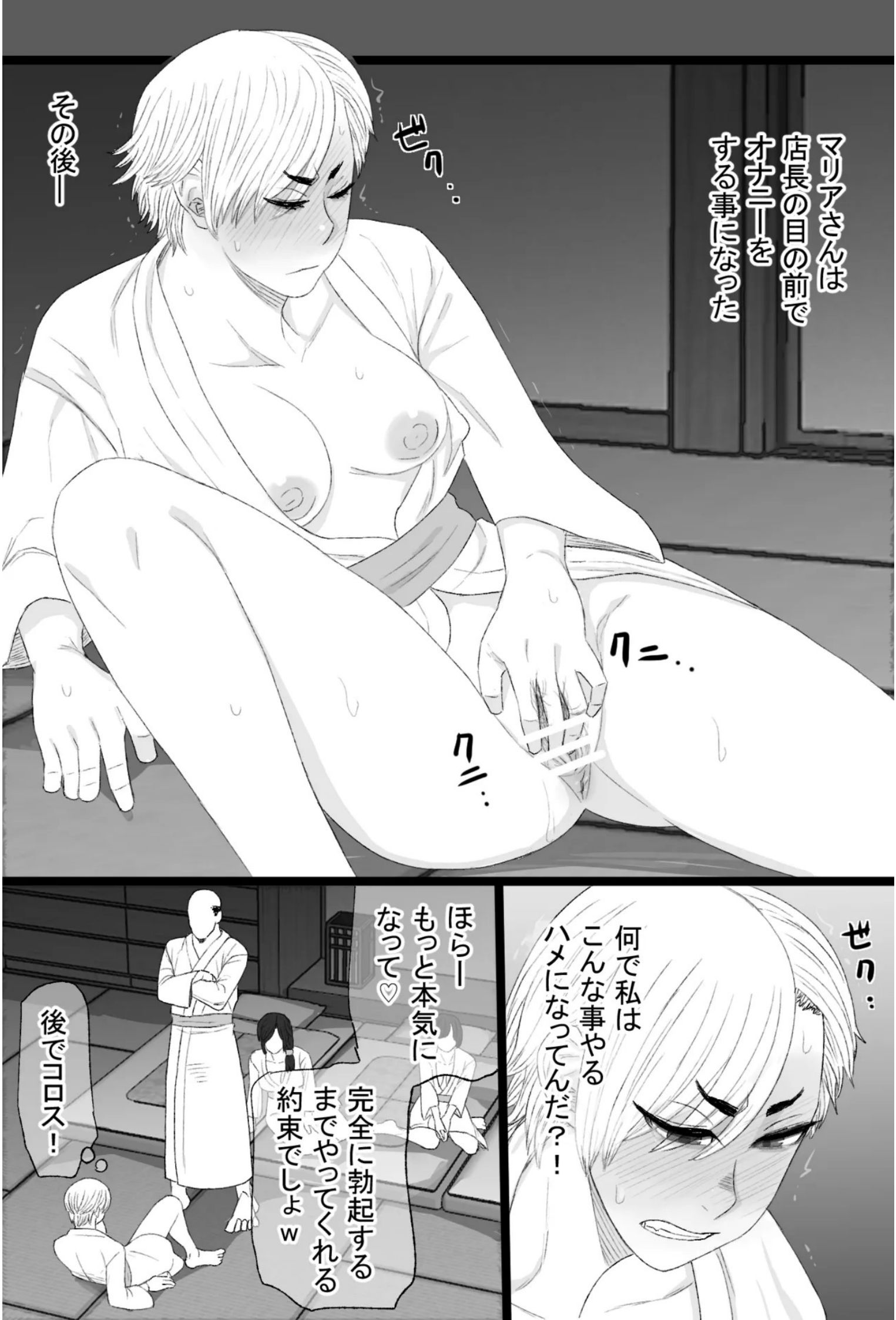
ホレホレ
ここ良いんでしょ？
メル…♡
店長の指は
私の弱点を
的確に捉え
や…♡
ビクビク♡
そこはダメ…♡
マリアさんの
目の前で
んう♡
私は――
その恥態を
晒すのだった

スッゲ…
二人とも普段
あんなに大人しいのに
店長に抱かれたら
あんな顔すんのかよ…
じゃ
そろそろ…
店長は
そう言って
十分濡れた
私の秘部に
その猛り立った
肉棒を挿入した
ゼロン
あうッ♡

店長は
私を抱えると
はっ
ぜんっ
あ
ッ♡
接合部を
マリアさんに
見せつける様に
ピストンした
ッ……！


マリアさんが
目の前に
居る事も
わすれ
私は―
店長の肉棒の
快楽に
酔いしれた

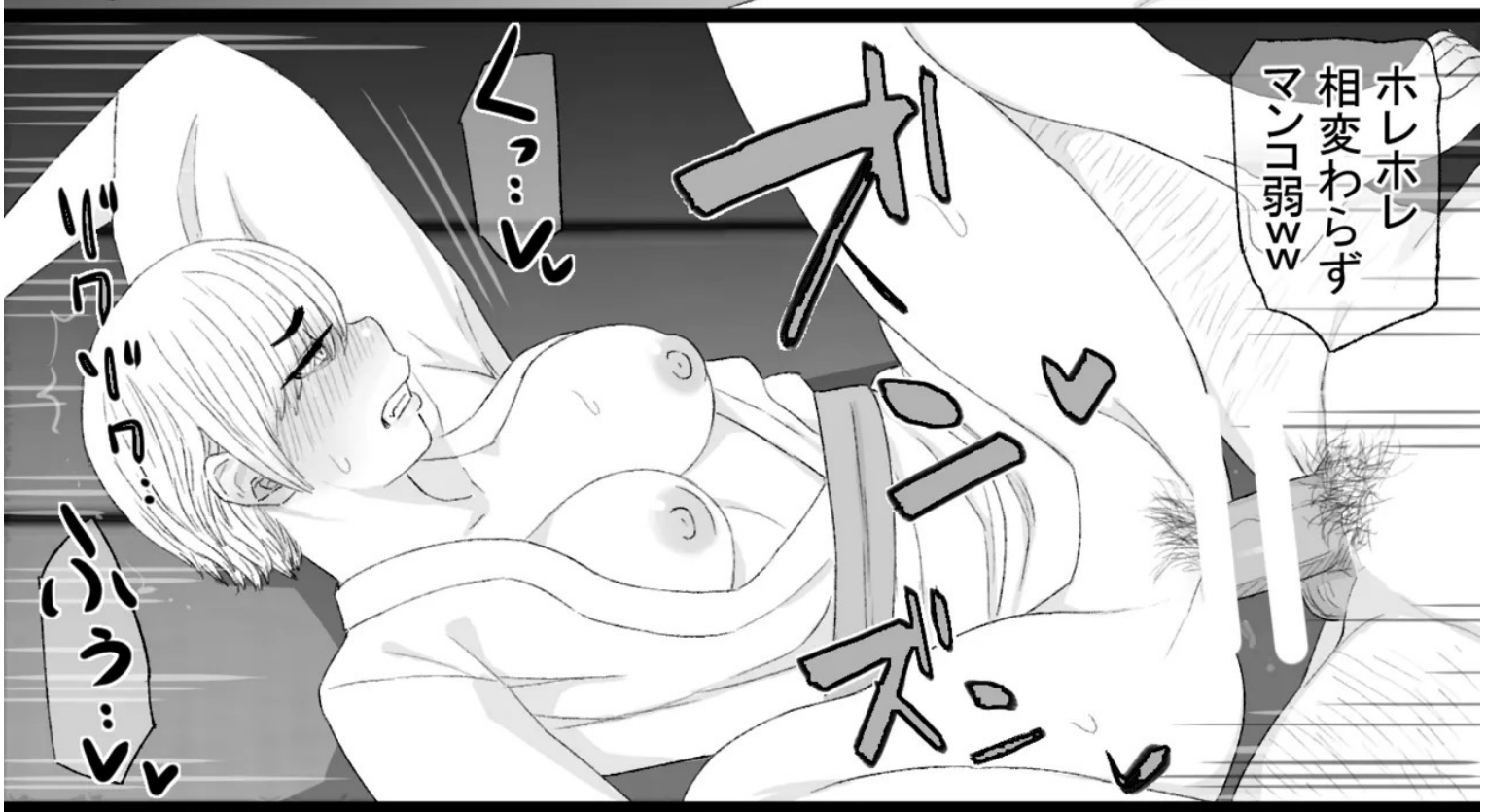
やがて
私も…
ハら…♡
ハら…♡
……
バクバク…
ズン
うあっ
マリアさんの
目の前で絶頂した


マリアさんは
店長の目の前で
オナニーを
する事になった
ゼノ…
その後ー
クニ…
クニ…
ゼノ…
何で私は
こんな事やる
ハメになってんだ？！
ほらー
もっと本気に
なって♡
完全に勃起する
までやってくれる
約束でしょｗ
後でコロス！

にしても
スンゲー
濡れてるな
ケーコさん達の
セックス見て
興奮してんのか
オナニーなんて
滅多にしねーし
あのクソ店長に
見られてるのに
何でこんなに
クるんだ?!
じゃあ
今度は
チンポ咥え
ながら
やってもら
おうかな
う…

こうしてマリアさんは
ニュプ
その巨大な肉棒を口に咥えながら
ズ…
ズ
自らの秘部を責めた
ニュプ…
ニュプ…
おほ～♡マリアちゃんのロマンコ最高♡
クッソ…
ズ…
こんな狒々ジジイのチンポしゃぶらされてるのに
ズ…

何で指が止まんねえんだ？
ニュ…
ニュ…
やべ…
また…
ゾクゾク。。
イ…ク…♡
あらら もうイっちゃったの？
ボクまだイってないのにw
く…
じゃあ準備万端みたいだから挿入するね♡
は？！
ま…
まだイったばかりで…



普段怒るとあれだけ
おっかないマリアさんが

あの忌み嫌う
店長の肉棒で
乱れる姿に
私達2人は

…！

とてつもなく
ショックを受けた

マリアさんの
真っ白い愛液が
絡んだ
凶悪な店長の
肉棒による
ピストンは
最後の
ラストスパートを
迎え
くっ
あッ
私とウミちゃんが
見守るなか
あ
あ
イク
イク
マリアさんは

派手に絶頂した
はぁ…♡
ぜぇ…
ぜぇ…
店長はひとしきり射精し終わり
ぜぇ…
あ～気持ちよかった♡
ぜぇ…
その肉棒を彼女のアソコから引き抜くと
ズルル…

大量の精液が
溢れ出た
ハ～…♡
ハ～…♡
ビクン…♡
ゼノン…♡
ヤロ…

それを見た
私は
……
自分の心が
更に淫靡な気持ちに
染まっていくのを
感じた
ゴニュ…

その後

私とウミちゃん
そして店長は
貸し切り露天風呂に
場所を変え
引き続きセックスをしていた
そしてマリアさんは
酒を飲みながら
その様子を
チッ
散々やったのに
まだやるんかい
か～・・・
店長ならいざ
知らず
あの二人も
猿かよ・・・
ようやるわ
完全に
ドン引きしながら
見ていた

ハ～…♡
ハ～…♡
ジュポ…♡
ジュポ…♡
レロォ♡
私とウミちゃんが
二人がかりで
懸命に
店長の肉棒に
奉仕した結果

店長の凶暴な肉棒は
更にパンパンに大きく膨れ上がった
あの年齢でエグすぎんだろ！？
どんな性欲してんだ？！
そして
じゃいくよ？
ウル
まずウミちゃんがソレで貫かれた
ヌニュ
んぅ♡
ズン

はぁ
ハ～…
店長の濃厚なピストンの前に
あぁ
ズン
ズン
ズン

2人のセックスを羨ましそうに見入ってると
ウミちゃんいいなあ…
…
店長は
ケーコちゃん
ムラムラしてるならマリアちゃんと
ちょっとレズセックスしてみてよ♡
――と提案してきた
ハア!?アホかそんな事やる訳ねーだろジジイ!
――そう普段の私なら絶対やるハズがないのに
完全にスイッチが入った私は
マリアさん…
え!?
ケーコさん?

いやいやいやいやいや
ま・・待ってって
・・・・
ケーコさん
ちょっと
冷静になれって!?
マリアさんは
必死で説得するが
それでも私は
彼女にキスをしてしまった
ッ・・!
うわ・・・
やわらか・・・!
じゃなくて・・・
早く止めさせないと
・・・でもブン殴るわけ
いかねーし
どうすれば
・・・・
彼女が動揺して
抵抗できない隙を
ついて私は

彼女のアソコに
指を這わせた
ハ～ン
ん～ン
ハ～ン
うっ～ン
ニュ～ン
ニュ～ン
ま～
待ってケーコさん！
せク～
最初は
激しく抵抗していた
彼女も
それは
ヤバいって！！
ニュ～ン
ニュ～ン
段々と反応が
大きくなっていった
ひギッ～ン
せクニ～ン
どうやら店長の
言う通り
アソコの責めに
極端に弱い様だった
ニュ～ン
ニュ～ン

おほ～♡
ケーコちゃん
やるね～♡
私とマリアさんの
絡みをみた店長は
俄然やる気が
出たらしく
本気の
ピストンを始めた
ハ～ッ
ハ～ッ
ひっ
あ～
ズン
ズン
ズン
ズン
その結果
あ～
ビクビク
ゼク
あ～
ズン
ズン
ズン
ズン

ゼクっ
うあ
ウミちゃんは
簡単に絶頂した
ヤク

一方その頃
は
ビクビクっ
あ
い
く

マリアさんの反応が愛おしくて
マリアさん…♡
私は店長のセックスを忘れ夢中になって彼女を責めていると
ケーコちゃん♡
ボクも仲間に入れて♡
店長がいきなり私に挿入してきた
あうん
て…店長！？
いや～夢中に責めてる所に悪いね
あまりに2人がエロくて我慢できなくなっちゃった

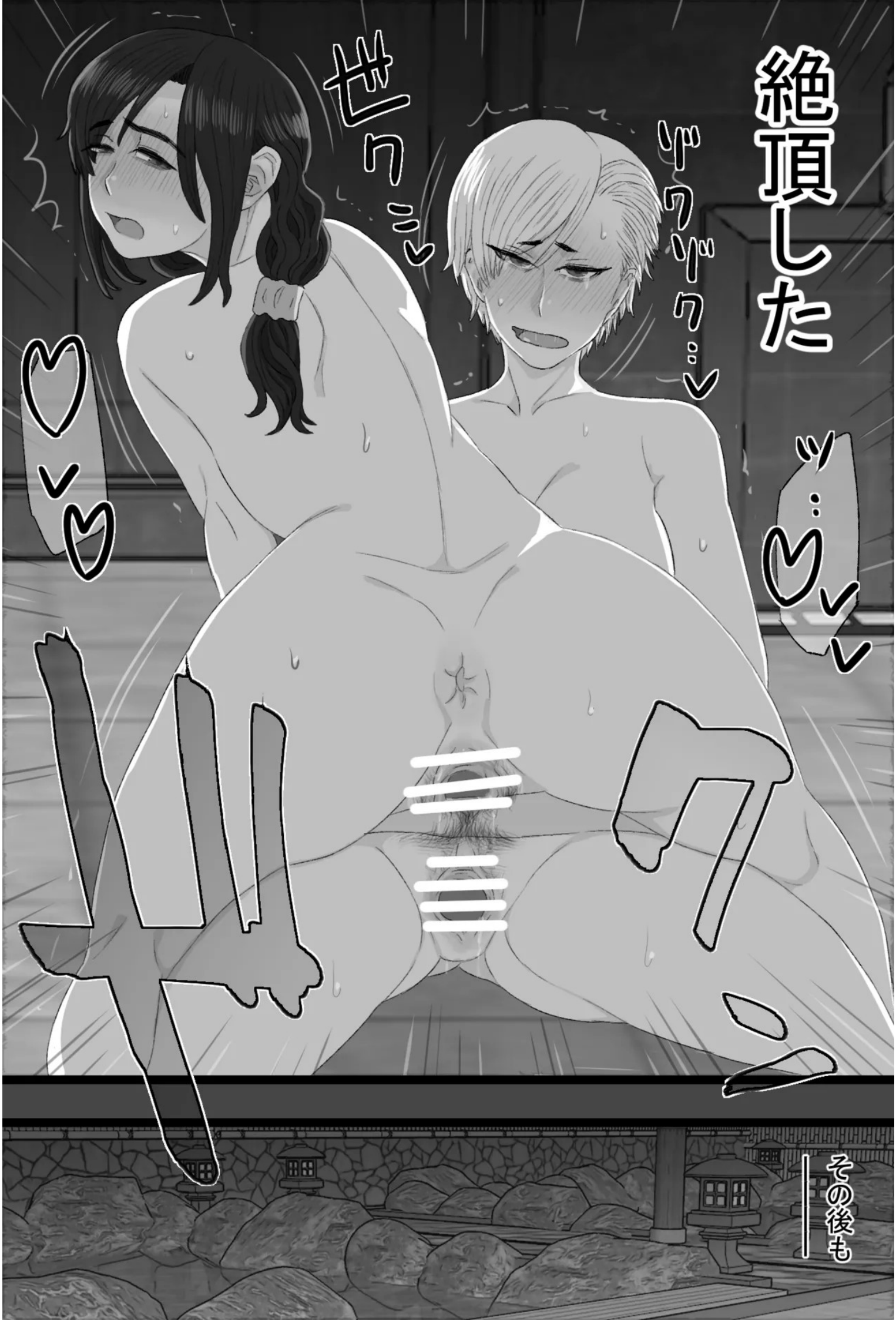
店長の肉棒の
威力は
相変わらず
凶悪で
ミチイ・・
ハ～ン
ハ～ン
ああ・・ああ
やっぱり・・
スゴイ・・
ボン
くっ・・ん
私はこの快楽に
耐えるのが
精一杯だった
ボン
あ・・ん
もうマリアさんを
責める余裕は無く
ありゃ
ケーコちゃん？
そんな状態の私の
見た店長は
ゼロ・・
ゼロ・・
ゼロ・・
一旦肉棒を
引き抜くと
ボン
しょうが
ない
な～w

女性器が重なるように
2人の体位を動かし
ぜ…
ツ…♡
ぱっ…
じゃ行くよ～♡
まるで2人同時かの様に
交互に挿入した
あぅ
ぜ…
ぜ…
くっ♡

実際店長のテクニックは
凄まじく
ズン
ズン
は…ぁ
あ…ぁ
ひ…ぃ
あ…♡
2本のペニスで
同時に挿入されてる
かの様に
ズン
ズン
ズン
私とマリアさんは
店長1人の肉棒で
蕩けていった
ひ…ぐ
ゼクン
ゼクン
ツ♡
ゼクン

私は店長のピストンに必死に耐えていたが
ふとマリアさんの顔を見ると
同様に彼女もまた必死に形相で快楽に耐えていた
その表情がどうしようもなく愛おしく感じて
私は再び彼女にキスをしてしまう
こうして——

私達3人は
溶けて混ざり
マリアさん♡
マリアさん♡
マリアさん♡
そして


絶頂した
ゼクン♡
ゾクゾク…♡
ヅ…♡♡
その後も

店長の性欲は
尽きる事が
無く――
ハ～…♡
うぁ♡
あ♡

くっ…♡
ビクビク…
あ♡

私達3人は
翻弄され
ッ…ン
ヴヴヴ…
…

ヤッバ〜ン
ヴヴヴ…ン
ーれ
ヤバイ〜ン

時間の許す限り混ざりあい
その快楽を貪りあった

そうして最後に
ハイチーズ♡
じゃ行くよ～
私達4人は記念写真を撮ったのだった
終